



NPO 法人ほしはら山のがっこう

設立趣旨

設立趣旨書より

自然豊かで昔からの暮らしが今なお残るわたしたちの「ふるさと」は、過疎化・少子高齢化、農林業や伝統文化の担い手不足などの問題を数々抱え、コミュニティー機能の維持が不可能になってきています。耕作放棄地、荒れた森、廃校、廃屋、その末には廃村…という現象も水源地から順々に起こっています。

わたしたちは、ここで起きていることは、地球全体が抱えている環境問題や、「本当に豊かな暮らし・生き方」「これからの開発の在り方」を求める人々の姿とつながっていると考えます。

平成15年3月、わたしたちの「ふるさと」にあった三次市立上田小学校も時代の流れに逆らえず廃校となりました。小学校は地域の人々にとってふるさとのシンボリックな存在であり、またさまざまな意味で「つながり」の接点でもありました。「大切なものを失った」という逆境の中で、わたしたちは「ふるさと」が持つ教育力・癒しの力・居場所としての機能・自然と人の共生力・農的な暮らしの知恵や結の精神・農村景観などの「豊かな価値」について再認識させられました。また、その豊かさは人々の幸せ感につながっていることに気付きました。

そして、旧上田小学校（通称ほしはら山のがっこう）を拠点としたふるさと自然体験による交流事業や地域づくり活動を重ねる中で、都市住民・大学生などの若者・子どもたち・自然体験活動指導者・諸外国からの訪問者・アーティスト・農林業ボランティア・地域おこしボランティアなどにつながる機会を得ました。そのなかで農山村の持つ豊かな価値や資源そして課題を「ふるさと」とつながる人々とシェアし、共有・活性化または解決に向かえる仕組みを構築することが、これからの持続可能な地域社会づくりに貢献することができる一つの形であるという考えにいたりました。

さらに、このような活動を行うにあたって社会的な信用を得て活動を推進していくため、また今後の諸事業を遂行していく上で様々な契約の必要性が生じたため法人化が急務となりました。ただし、営利を目的とはしていないので会社法人の形式は似つかわしくありません。そこで、特定非営利活動法人ほしはら山のがっこうを設立することにいたしました。

活動紹介

主催イベント／ふるさとと自然体験塾

主催イベント「ふるさとと自然体験塾」

年間を通して、ふるさとや自然を主に子どもたちや親子が体験できるイベントを開催しています。「おいしい楽校」「森づくりカフェ」「森のかけっこスクール」など様々なメニューがあります。また月1回、参加申込なしでふらっと参加できる「開放日」があります。

●ふるさとと自然体験塾の想い

◆豊かな自然に生かされながら、自然と共に生きている暮らしが今なお続いている「ふるさと」で、だれもが原体験を重ねられる場、自然と日常とのつながりを感じる場を提供したい

◆交流による地域活性化で、かけがえのない「ふるさと」の自然と文化を次世代につなぎたいという、大きく分けると2つの想いでスタートしました。

●体験塾の先生やスタッフ

稲刈りやしめ飾り作りなどの先生役は、地域の方々。毎回暮らしにつながる様々なことを教えていただいています。キノコや木登りなどのプログラムでは、県内外からのステキな自然案内人の講師にお会いできるのも楽しみ。

企画進行は、子どもと自然と遊びが大好きで、自然体験活動指導者の資格認定研修を修了し、指導経験のある登録スタッフがを行っています。当NPOが開催する「里山いきもの探検ガイド養成講座」修了生のスタッフもいます。みんな、ニックネームで呼び合っています。また、学生ボランティアが子どもたちの体験に寄り添い、一緒に遊んだり、プログラム進行をしたりしています。



●一日の流れはゆったり

プログラムは、とてものんびり。「今、ここ」で起きている、たくさんの発見や気づき、気持ちをわかちあいながら、子どもも大人も、スタッフも、お互いに学びあえる時間を過ごしたいと考えています。また、毎年ほぼ同じプログラムを繰り返す中で、昨年同じ時期に咲いていた花やキノコに出会ったり、今年は出会えなかったり、といった季節とのめぐり逢いを楽しんだり、「出来なかったことが出来るようになった!」といった自分の成長を感じたり出来る場づくりをしています。

●活動の目的

体験塾の究極の目的は、「自然と人間はどうしたら仲良く暮らしつづけられるのかなあ」「ふるさとの風景はどうしたらつないでいけるのかなあ」という問いをみんなで考えることができる、ひとつの場・きっかけとなること。

未来の子どもたちに「豊かな自然・ふるさと」を手渡していくさまざまな活動の輪の、ひとつになりたい。

そのために、私たち体験塾にできることは、まず自然の中に飛び込んでいっぱい遊んで、楽しい思い出を作って、「自然」が好き、「ふるさと」が好き子どもたちを育むこと。

きれいだな、カッコいいな、おいしいな、ふしぎだな・・・という感性からの自然との出会いから、「大切にしたい!」「もっと知りたい!」「技を身につけたい!」という、わきあがる心を育めたらな、と活動を続けています。

そして子どもたちが、そして親子が、「これからの暮らし方」を選択する上での何らかのヒント・学びを得られる場所になれば、とても幸せです。

ぜひ一緒に、楽しい思い出をいっぱい作りましょう!!



活動紹介

日帰り体験・宿泊体験の受入

ふるさとや自然を体験したい！「体験・交流」の受け入れ（日帰り・宿泊）

学校の自然体験や子ども会キャンプ、ファミリーグループでのお泊まり会などの「宿泊」また「体験」の受け入れをしています。体験プログラムづくりの相談にも応じています。

また、田舎暮らしの達人や体験スタッフの指導による楽しい体験メニューもあります。

お泊まりは、校舎でのご寝体験、校庭やほしはらの森でのテント泊、また農村ホームステイ（民泊）も案内しています。

●モデルプログラムを紹介。

1泊2日

1日目

- 14:00 開校式・オリエンテーション
- 15:00 ★ネイチャーゲームで里山体験
- 16:30 野外料理（夕食）
- 18:30 フリータイム（お風呂など）
- 19:30 ★星空教室
- 21:00 おやすみなさい

（焚き火を囲んでのんびり交流を楽しむのもいい）

2日目

- 6:00 ★朝の自然体験（モーニングウォーク）
- 7:00 朝食
- 8:30 かたづけ
- 9:30 閉会式
- 10:00 終了

近くの観光農園や施設、公園などに遊びに行こう

★印は、体験メニューより選択。



自然と直接ふれる！
ふるさとの人たちと出会う！
工夫すること、たすけあうこと、
自然の不思議、楽しさ、厳しさと出会うこと…
たくさんの気づきや感動！
あしたのあなたの力になあれ。

活動紹介

ふるさとを 100 年後の子どもたちにつなごう

ふるさとを 100 年後の子どもたちにつないでいく活動に参加しませんか

廃校になったとき、この元上田小学校の校舎は、撤去して更地にされるかもしれませんでした。

小学校が存続していた当時、廃校決定を聞いた時には、すでに校舎は雨漏り・床の痛み・シロアリなど課題を抱えていて、そのままでは維持できない状態でした。

校舎は、戦後、この地域の方々が労働奉仕をして子どもたちのために建てたそうです。それから多くの小学生がここで学び育ちました。ここは思い出がたくさん詰まった場所「ふるさとのシンボル」でした。この校舎を修復し、なんらかの新しい活用方法を見つけて残すことはできないか。廃校2年前より模索がはじまりました。

市役所の方々が「上田小学校跡地活用プロジェクトチーム」を作ってください、何度も上田町に足を運んでくださいました。上田町では町内会役員に合わせて公募委員を募集しました。

市役所の方々と何度も何度も夜遅くまで話し合う中、「都市農村交流施設としての活用」が提案されました。

「観光名所、温泉やスキー場もないような田舎に、人が来るのだろうか。」

「上水道・下水道も通っていない施設で人を呼べるのだろうか」

「店も街灯も、公共交通機関もないような不便な場所に、人は来ないのではないか」

出てくる言葉は、この地域にないものばかりでした。

そんなとき、「あるものがし」という言葉に出会いました。

この町にある「ふるさと」資源を再発見していった瞬間でした。

この地域には名所はないけれど、自然と共に生きる知恵や知識・技術を持った人たちがいっぱいいること。井戸水がおいしいこと。店はないけれど自給的な暮らしがあること。街灯がないからこそ星空が美しいこと。霧の海が見える岡田山山頂があること、オオサンショウウオが棲んでいる滝があったという思い出も出てきました。

そして、旧上田小学校は、都市農村交流宿泊施設として生まれ変わることになりました。

その後、ここに訪れる方々が、「ここが好きなんです」「星がすごくきれいですね」

「ここに来ると気持ちがスッとします」「本当にきれいな風景ですね、ふるさとを感じます」

など、声をかけてくれるようになりました。廃校・少子高齢化・人口減少などの現状のなかで失われそうになっていた「ふるさとへの誇り」を、交流のなかで感じることができました。そして今、このふるさとの暮らしがここにあるからこそ、里山の自然や風景、生き物たちに出会えること、それらが失われつつあることに気付かされています。

「ふるさと」を交流によってつながっていく人々と共有し、未来につないでいくことに私たちは挑戦していきたいと考えています。豊かな自然と文化を、いっしょに楽しみ、分かち合い、100年後の子どもたちにつないでいきましょう。

活動例

- ふるさと自然体験塾で、ふるさとの自然や遊び、農的な暮らしを体験（原体験・センスオブワンダー）
- 地域行事に参加（原体験・交流・にぎわいづくり・ふるさと文化継承）
- 森づくりや里山体験フィールドづくり（景観や環境保全・体験の場づくり）
- 主催行事のボランティアスタッフ（体験の場づくり・交流の場づくり）
- 里山いきもの探検ガイド（ふるさと環境教育）

etc . . .



これまでの歩み

- 2003年3月 三次市立上田小学校閉校
2003年5月 任意団体に上田町まちづくりセンター開設
三次市より施設を無償で借り受け、町内外利用者の受入開始
2003年7月 「ふるさと自然体験塾」スタート（～現在）
2004年1月 トムソーヤスクールコンテスト文部科学大臣奨励賞受賞
（安藤スポーツ・食文化振興財団）
2004年度 「地域連携システム整備事業（国）」実施
8月 「第一回夏休み子ども7泊8日キャンプ」（協力実施～現在）
2005年度 都市農村交流施設として改修工事（国・三次市の補助）
2006年3月 川西自治連合会 地域づくりビジョン策定によって、
川西地域づくりの都市農村交流拠点施設として位置づけ
2006年 改修工事第2期（三次市）
2007年 校舎お披露目の会
2007年7月 「第2回おもちゃフェスタ」会場に。700名来場
以降、9年間開催会場（最大1500名来場）
2008年度 上田町まちづくりセンター発展的解散
任意団体ほしはら（非営利事業）設立
営農組合上田えの～（営利目的）と連携組織となる
2009年度 第一回神楽伝承事業実施
2009年11月 「やまのがっこうカフェ」会場 400名来場
以降、3回開催会場
2010年度 ほしはらの森づくりスタート（初年度全労済助成）
以降、継続（ひろしまの森づくり事業、寄付金など）
2010年5月 川西軽トラ朝市（共催）・月一開催（～2016年）
2011年度 地域×大学生「ぼくらのいなか旅」企画事業（2年間）
2012年1月 内閣府特命担当大臣表彰受賞（子ども・若者育成支援）
2012年1月 NPO法人ほしはら山のがっこうとして再スタート
2012年度 古民家再生&竹取合戦（巨樹エノキ保全事業）（～2016年）
2013年3月 旅館業営業許可取得
2015年度 中国ろうきんNPO寄付システム／中山間地域分野事業実施
同年 「森のかけっこスクール」「防災子どもキャンプ」スタート
2017年度 マツダ財団連携事業「若者×ツナグバ」（～2020年）
2018年度 「森のようちえん（月1イベント型・共催）」（～現在）
2019年 ひろしま環境賞受賞（広島県）
2020年 RCCラフ・グリーン賞受賞（中国放送）
あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣官房長官賞受賞
（あしたの日本を創る協会）
2020年4月 三次市指定管理施設「上田山の学校」指定管理者に
2022年度 里地里山エコツーリズム造成事業（観光庁補助）
隣接する休耕田とほしはらの森を一体的につないだ
「里山いきもの探検フィールド」づくりスタート
2023年度～ 里山のいきもの体験ができる環境教育の場づくりと持続可能な
保全の仕組みづくり事業（地球環境基金助成・3年間）

上田町内会とほしはら山のがっこう参加者が交流しながら、
環境整備活動（2回）や、夏まつり、秋の上田町民運動会を毎年実施継続中

たくさん子どもたちや親子・参加者との出会い、
大学生などのワカモノたちとの出会い、
ボランティアのみなさんとのつながり、
行政や助成くださる団体など多くの方々への支援が、
里山の風景や
地域の方々のお笑い声あふれる暮らしと響き合って、

現在に至る

think globally act locally

ふるさとを
100年後の子どもたちにつなごう！

ほしはら山のがっこう会員募集中

- 正会員／年会費10,000円
- 団体正会員／年会費50,000円
- 賛助会員／年会費3,000円
- 賛助会員2（家族会員）／年会費1,000円
- 団体賛助会員／年会費5000円
- サポーター会員／一口1000円

※会員には、会報を月1回メールでお届けします。
会員の交流会があります。施設を会員料金で利用で
きます。

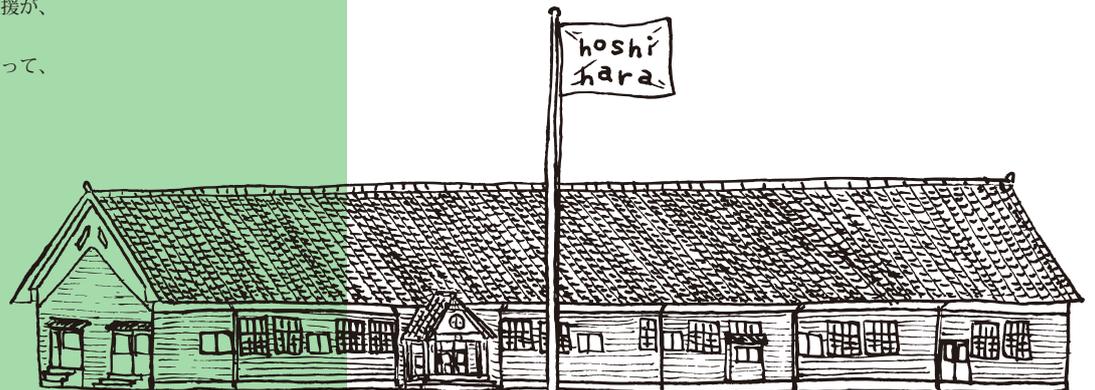
会費振込先

【郵便振替】

口座記号番号 01320-8-103991

加入者名 特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう

ほしはら山のがっこう



団体概要

団体名称	特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう
設立	2003（平成15）年5月
法人化	2012（平成24）年1月
役員	理事長 金末 忠則 副理事長 今西 彰 浦田 愛 面手 一義 宮本 和夫 理事 檜谷 義彦 平田 克明 監事 山下 岡信 顧問 福永 要 松浦 滋
所在地	広島県三次市上田町 388 旧上田小学校
連絡先	0824-69-2888 info@hoshihara.org
ホームページ	https://www.hoshihara.org



ほしはらとは

「ほしはら」とは、旧上田小学校の校歌の中にある言葉です。

校歌がなかった小学校に、ある先生が歌詞を書かれることになりました。

「この小さな山里を子どもたちが誇りに思い、子どもたちが自信を持ってたくましく育っていくような詩にしたい・・・」

その日、先生が仕事を終え、小学校の玄関を出ると、もう辺りはすっかり暗くなっていました。街灯のない山里の校庭には、満天の星がかかっていた。

「ああ、なんて星がきれいな原っぱなんだろう、ここは星原だなあ。」

こうして上田小学校の校歌の中に「星原」が歌われることとなったのです。

・・・廃校活用プロジェクトが進む中、「ないもの」ばかりが浮かんで「ワシらの町にはなにもない」という言葉が飛び交いました。

しかし、しばらくして「星が見えるのは街灯がないからだ」ということに気づいた瞬間がありました。「大きな川はないが、川の赤ちゃん（源流）の一滴がある」「上水道はないが、おいしい山水・井戸水がある」「店はないが、自給的な暮らしがある」・・・・・・。そこから、「あるものさがし」がはじまったのです。

「ほしはら」という言葉は、「ないからこそ、あるもの」の象徴であることに気づき、私たちの活動名として引き継がれることになりました。